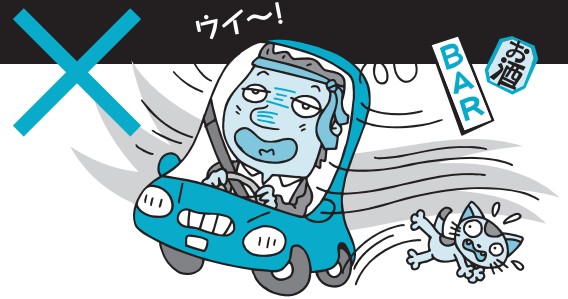


冬の交通事故防止運動

平成26年
12月11日(木)▶12月20日(土)

飲酒運転の根絶

- 平成26年上半年期(1~6月)、全国の原付以上の運転者(第1当事者)の死亡事故率を飲酒の有無別で見ると、飲酒運転の死亡事故率は飲酒なしの場合に比べて9.7倍です。中でも、酒酔い運転による死亡事故率は19.4倍となっています。
- 飲酒運転は死亡事故につながる危険が高くなります。事故を起こした本人だけでなく、家庭や職場、社会等へも計り知れない悪影響を及ぼす重大な犯罪です。ドライバーはもちろん、家庭や職場でも飲酒運転の危険性・悪質性を常に考え、飲酒運転を根絶しましょう。
- 二日酔いでも飲酒運転になります。アルコールは体内から簡単に抜けないことを認識し、深酒した翌日は車の運転を控えましょう。



「ハンドルキーパー運動」

ハンドルキーパー運動とは、自動車仲間と飲食店などへ行く場合に、お酒を飲まない人(ハンドルキーパー)を決め、その人が仲間を自宅まで送り届ける運動です。

車間距離の保持と正しい合図の励行

適切な車間距離の保持

車が停止するまでには、運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが効き始めるまでに車が走る距離(空走距離)と、ブレーキが効き始めてから車が停止するまでの距離(制動距離)を合わせた距離(停止距離)が必要です。積雪や凍結の路面では、乾燥した路面の3倍以上の車間距離が必要です。適切な車間距離を保ち、交通事故を防止しましょう。

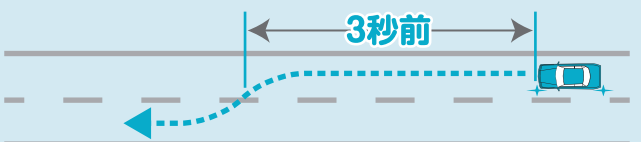
速度別制動停止距離(※乾燥舗装路面)

走行速度(時速)	空走距離(反応時間等を0.75秒で算出)	制動距離(摩擦係数0.7で算出)	停止距離
30km/h	6.2	5.1	11.3m
40km/h	8.3	9.0	17.3m
50km/h	10.4	14.1	24.5m
60km/h	12.5	20.2	32.7m
70km/h	14.6	27.6	42.2m
80km/h	16.7	36.0	52.7m
90km/h	18.8	45.6	64.4m
100km/h	20.8	56.2	77.0m

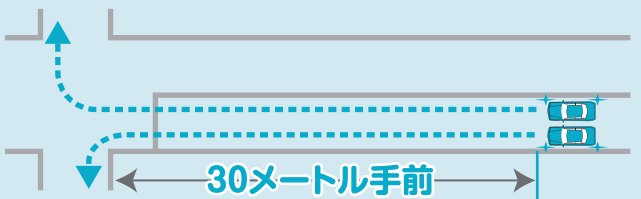
正しい合図の励行(3秒前、30メートル手前)

県内の道路では、合図を出すのが遅かったり、合図が短かったりする車が多く見受けられます。合図は、それぞれの行為により、次に定める時期に開始し、その行為が終わるまで継続しなければいけません。

- 1 同一方向に進行しながら進路を変えるときは、その行為をしようとするときの3秒前。



- 2 右折、左折の合図は、その行為をしようとする地点または交差点の手前の側端から30メートル手前の地点に達したとき。



横断歩行者の保護

平成26年上半年期(1~6月)、県内では、道路横断中の交通事故により歩行者が11人亡くなっており、全死者数の約22%を占めました。

- 冬季は積雪により、歩道を歩くことができず、歩行者が車道を通り、滑って車道に転倒したりすることがあります。ドライバーは、車道を通り歩行者がいることなどを予測し、歩行者の早期発見に努め、歩行者の脇を通過する時は、安全な間隔を保ち、減速・徐行するなど慎重な運転を心掛けましょう。
- 交差点付近は多くの車が停止・発進を繰り返すため、積雪路面が磨かれてスリップしやすくなります。ドライバーは、路面状況に応じて、ブレーキ操作やハンドル操作を慎重に行い、スリップ事故の防止を図りましょう。また、歩行者は、転倒に注意するとともに、車の動きに十分注意し、車が止まったことを確認してから道路を横断しましょう。

